入間地区退職校長会会報

いるま

第44号

令和６年９月１日発行

題字・発行者
会長　比留間 英雄

一日一生
学び続け生かす努力を

副会長　鯉沼 文夫

昨年度より入間地区退職校長会の副会長として、会長はじめ役員の皆さんのご支援をいただきながら、本会の発展に向けて微力ながら取り組んでいるところです。

「少にして学べば則ち壮にして為すあり。壮にして学べば則ち老ゆとも衰えず。老いて学べば則ち死すとも朽ちず。」

これは、佐藤一斎の「言志晩録」にある言葉です。壮年期、老年期に至っても学び続けることの大切さを説いています。生涯学習社会の中で、地域の方々と共に支え合いながら一日一日を大切に余生を過ごしていきたい、と願っている私にとって大切にしている言葉です。

そのために、日々健康な体づくり、地域の方々に感謝しながら共助の取り組みを続けていくとともに、絵画制作、俳句作りをとおして感性を磨く努力を続けています。

早いもので、退職して十数年経ちました。この間、自治会や社会福祉協議会、観光協会の仕事に携わり、教職時代と異なる貴重な経験をさせていただき感謝しているところです。

少子高齢化が叫ばれている中、地元では義務教育学校への体制づくりが進んでいます。

また、情報化時代に向けた学び方改革、さらには教職員の働き方改革など、様々な教育改革が学校現場で求められています。こうした時代の流れの中にあって、これからの社会を支えていく子供たちにとってどのような教育を施して行くべきか、関係機関等が連携して教育改革に取り組む必要性があると思います。

退職後、学校現場から離れて久しい中、私たちも常に学び続ける姿勢を忘れずに、学びや経験から得た知識を生かして、教育委員会や現職校長会と手を携えながら、これからの社会を支えていく子供たちの行く末を見守って参ります。

魅力ある学校づくり

西部教育事務所
所長　小林 美音

入間地区退職校長会の皆様には、日頃より、入間地区の様々な教育活動の発展・充実のために御支援・御協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

令和六年度は、入学式・始業式が桜の満開と重なったこともあり、よいスタートが切れたように感じています。コロナ禍を経て、ようやく通常の教育活動が滞りなく行えるようになってきました。マスクを外した子供たち、先生たちの笑顔は一際輝いています。

一方、学校教育においては様々な課題が山積しており、特に全国的な課題の一つとして「不登校児童生徒の増加」が挙げられます。文部科学省の調査結果によると、不登校児童生徒数は、小学校では十年前の約五倍、中学校では約二倍に増加しています。

不登校の要因は多様化・複雑化しており、各学校において、先生方が一人一人の子供たちに寄り添い、懸命に努力していただいていることには、本当に頭が下がる思いです。学校でも組織的な取組が推進されてきており、発達支持的な生徒指導も広がりを見せています。

不登校対策は一朝一夕に進むものではありません。そういった中で、重要になってくるのが『魅力ある学校づくり』です。学校でしか提供できない魅力を追求し、全ての児童生徒が「自分は大切な存在だ」と思えること、学校が心の居場所であり、絆づくりの場となっていること。今後も、全ての小中学校等において、子供たちが「学校が楽しい、先生が好き」と思えるような、『魅力ある学校づくり』が力強く推進されていくよう、教育事務所としても精一杯支援してまいります。

結びに、入間地区退職校長会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を心より御祈念申し上げます。

令和六年度 定期総会開催される

四年ぶりに懇親会も

令和六年度定期総会が、五月十日(金)午前十一時より日高市立生涯学習センターで開催されました。

今年度は、四年ぶりに新入会員歓迎会並びに懇親会も実施することができました。

総会出席者総数は、来賓・本会役員・各班代議員・日高班実施委員を含め九十一名でした。

総会は、次第のとおり進行され、議案も全て承認されました。

議事に先立ち、県本部新井俊一会長の代理を兼ねて、比留間英雄会長から次の挨拶がありました。

公務員の定年が延長され、今年三月に退職された校長はゼロとなるが、校長という役職は定年になるため退職校長会への入会は全支部が進めました。入間支部では対象者四十二名のうち十六名の新入会員をお迎えしました。

入間支部の会員は県下最大の七百二十名となったが、更に魅力ある会への課題が問われます。

入間支部各班がそれぞれ創意工夫した活動を展開されているが、支部としても全面的に支援してまいります。

次に、昨年度の二つの新規事業について説明がありました。

一つは、ホームページ作成研修会です。各班の努力のお陰で十一班全てがホームページを立ち上げることができました。今後は大いに活用してください。

二つ目は、「会員交流のつどい」です。女子栄養大学の府川則子先生から「六十歳からの食生活と健康づくり」と題する講演をいただきました。退職後の健康維持に大いに参考になりました。続いて会員の高野明夫氏にギター演奏、東邦音楽大学生の鈴木さんにフルートを演奏していただきました。初めての行事でしたが、四十七名の会員に参加をいただきました。今年度も十月に実施しますので、是非ご参加ください。

例年行事として、研修・親睦旅行の実施、教育推進研究協議会の開催、会報「いるま」の発行を行います。県本部の事業も予定どおり行われます。

また、懸案であった県退職校長会の会員名簿については、全会員への配布は中止し、役員用のみ作成することに決定したとの報告がありました。

続いての新入会員歓迎会では、所沢班の五十嵐和彦氏から新会員代表の挨拶をいただきました。

「教員は学び続けるものだと若いころから諸先輩方から教えられてきた。これからもいろいろなことを学び成長したいと考えている」とフレッシュな挨拶がありました。

議事終了後には、三名のご来賓から祝辞をいただきました。

初めに、西部教育事務所小林美音所長から埼玉県及び西部教育事務所管内における教育の現状について情報提供をいただきました。

一　県教育局の組織改正について

人権教育課が市町村支援部から県立学校部へ、生徒指導課が県立学校部から市町村支援部へ移管したこと。

二　生徒指導上の課題について

小・中学校の児童生徒の不登校の増加が顕著になっていること。

三　教職員の不祥事根絶について

懲戒処分のうちわいせつ行為等が増えているが、SNSがきっかけになることが多いこと。

四　管理職候補者（特に教頭候補者）の不足について

教頭候補者の志願倍率が全県で一・一倍と過去最低となったこと。特に西部教育事務所管内では深刻な状況であること。

最後に、退職校長会の皆様には、大所高所からのご示唆と、学校教育、

挨拶する比留間会長

令和6年度 新会員紹介

16名（敬称略）

班	氏名
川越	山原　伸治
川越	新井久美子
川越	山﨑　紀子
狭山	紫竹理枝子
所沢	河野　公子
所沢	五十嵐和彦
所沢	米澤三八子
所沢	内山　直樹
所沢	熊本　純利
坂戸	本橋　一夫
坂戸	田中　孝次
鶴ヶ島	星野　浩弥
入間	吉田　穂高
入間	山元　丈司
入間	富井　　弘
入間	今泉大二郎

社会教育の充実・発展に向けご理解をいただきたいと結ばれました。

次に、日高市教育委員会教育部の長嶋伸一参事からは、日高市が推進している「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」についての紹介がありました。

日高市内六地区にそれぞれ一つの小学校、一つの中学校、一つの公民館があるという特色を踏まえ、地域に根差した教育を展開することが取り組みの原点であった。

令和元年度から高萩小学校と高萩中学校で、令和二年度から市内全地区で小中一貫教育をスタートさせた。

令和五年度には「義務教育学校」武蔵台小中学校が開校し、今年度は高根小中学校が開校、さらに来年度には高麗小中学校が開校し「義務教育学校」が三校になるという話でした。

続いて入間地区小学校長会山田勇会長から祝辞をいただきました。登校指導時のカルガモ親子との珍しい出会いから話が始まりました。校長室では、先輩校長の写真に向かって当面する課題を問いかけて自問するなど、山積する課題解決に真摯に取り組む校長の姿が伝わってきました。

懇親会で挨拶する日高班 鯉沼会長

～懇親会・旧交を温める～

総会終了後、会場を移して四年ぶりの懇親会が開催されました。

比留間会長の挨拶の後、日高班鯉沼文夫会長から歓迎のことばが述べられました。続いてパリ五輪マラソンに出場する高麗川中学校卒業生の小山直城選手の紹介、「遠足の聖地日高」、日高市の小中一貫教育等についてのＰＲがありました。

和やかに宴が進み、会場のあちらこちらで談笑の輪ができていました。皆様の旧交を温めることができたのではないでしょうか。

大締めの音頭を、来年度の総会開催地である所沢班の内野正行副会長に取っていただき、お開きとなりました。（文責　日高班幹事）

班だより

「会員相互の交流」と「学校との絆づくり」

越生班　原　邦宏

越生班は会員数二十五名の小さな組織です。行事は、総会・懇親会、教育支援活動と研修です。

総会・懇親会は対面により行われ、和気藹々とした雰囲気の中で懇親を深めることができました。

教育支援活動は、ここ数年活動していませんが、多くの会員がボランティアとして、学校内外での読み聞かせ活動や長期休業中の補習の手伝い等をしています。

研修は、会員相互の交流と会員の教養を高めることを目的に年一回実施しています。

昨年は、教育委員会と越生中学校の理解をいただき、越生中学校の教育活動を参観しました。当初は、デジタルを活用して行うＩＣＴ教育への理解を深めるため、パソコンやタブレットを活用した授業を参観させていただきたいとお願いしましたが、

「折角の機会ですので全クラスを自由に参観してください」

との谷ヶ崎仁校長先生の有難い申し出があり、全クラスを参観しました。

参観の中で、各教室に一台ある大きなディスプレイやＷｉｆｉの張り巡らされた環境に驚き、当初の目的であったタブレットを活用した授業も参観することができました。タブレットを慣れた手つきで操作し、自分の考えを入力し、その考えを大きなディスプレイに映し出し考えを共有する姿はひと昔前には見ることができない場面でした。

全体を通して、授業が少人数で行われ、生徒と教師、生徒と生徒とのやり取りが活発に交わされ、とても温かい雰囲気で学習する姿が見られました。

参観後の意見交流会では、参会者全員から学校へエールを送る感想発表があり、和やかに研修会を終えました。

これからも、総会、教育支援活動、研修を通して、会員相互の交流と学校との絆を深めていきたいと思います。

越生中学校 授業参観

生きがい

ボランティア三昧

入間東部　石塚初代

小さい頃からの夢だった教師の職を定年退職し、七年目を迎えています。ずっと学校という世界だけを見てきたので、退職後はやりたいことがたくさんありました。あれこれ首を突っ込んでみたものの、いつも行き着く先は子供たちの声の聞こえる場所でした。

まさに『ボランティア三昧』の文字通り？自分の居場所を三つ見つけました。自由に使える時間ができた今だからこそ、支えて下さった方や地域への恩返しとも思っています。

一つ目はお世話になった学校でお手伝いをしています。教員の働き方改革が叫ばれる中で人手不足の現実、私一人の力など微力ですが、先生たちが少しでも子供たちと向き合える時間の確保に貢献できたらと考えています。

二つ目は校長として赴任した小学校で出会った読み聞かせボランティアさんの影響で、読み聞かせの楽しさを知りました。研修会で読み聞かせの奥深さを学び、今後は地域の学校で読み聞かせボランティアデビューをする予定です。

三つ目は子ども食堂に関わっています。料理が好き、人に食べていただくことが好き、こんな私は、以前から子ども食堂に関心を持っていました。食は生きる支え、しかし現役時代は忙しさを理由に、我が子に手抜きの食事や孤食を強いたこともありました。我が子にできなかった反省もあり、子ども食堂に目が向いたのかも知れません。

食べている子供たちの笑顔やボランティアさんの温かさ、素敵な人と人との関わりに、心地のよい時間が流れています。

子供たちの元気な声の中、平凡な日常が過ぎていくのが、今の私の生きがいです。

みよしおなかま子ども食堂
代表　飯塚結花さん（右）と

人生やることあれこれ

飯能　神田俊也

「生きがい」について調べてみると四つの要素があるとのこと、その中の三つについて述べます。

まず一つ目「必要とされる」こと、子や孫が病気に罹ったり、仕事で忙しく困った時、手助けになることです。特に孫には、教職で培った知恵を授け子守をしています。

次にシルバー人材センターに登録し、高齢者の家の清掃、フレイル予防のサポーター、重い荷物運びなど色々な仕事を仲間と楽しく会話しながら働いています。終了後「ありがとう」の一言で喜びを感じます。

二つ目の「得意」とすることです。野菜栽培教室で学んだことを活かし年間約二十種類の野菜を育て、家族兄弟・親戚に送り食べてもらっています。但し、色々な害獣にやられないようチェンソーで切った木や竹を工夫・活用し防いでいます。刈払機による雑草退治も大変です。ＳＤＧｓにも繋がっています。

三つ目「好き」なことです。約四十年続けている硬式テニス、この長い間に沢山の友人もでき、何回か試合で優勝しました。また、長年続けているプール通い、泳ぎは得意ではありませんが、今はほぼ毎日水に浮いています。運動ばかりでなく、あまり参加できなかった公民館活動・文化講演会・音楽会・図書館通い等積極的に参加しています。また、もう一つ楽器の才能はないですが、オカリナ・ウクレレ・今年はカリンバに挑戦しています。なかなか上達しません。さらに、昔学んだ物理・数学を学び直し、最新の科学に少しでも追いつきたいと思っています。退職後八年間簡単な日記をつけていますが、不思議と三日坊主になっていません。

最後に、俳優渡哲也さんのセリフに「人生に未練はあるが悔いはなし」とあります。この域に少しでも近づけられるよう一日一日を大切に過ごしていきたい。

令和六年度 研修・親睦旅行
八ッ場ダム・善光寺 新たな発見!!

好天に恵まれた二日間、九十五歳の会員の参加を得て、既存知識をさらに深め、親交を温めた充実の「大人の社会科見学」になりました。

【旅程】　参加者 30名

７月４日（木）　本川越・川越（関越道）➡ 渋川伊香保IC ➡ 八ッ場ダム（案内人説明のもと見学）➡ 浅間酒造（昼食）➡ 八ッ場ダム天明泥流ミュージアム ➡ 高天ヶ原温泉・志賀パークホテル（泊）

７月５日（金）　信州フルーツランド（買物）➡ 高橋まゆみ人形館（見学）➡ 善光寺・たきや（参拝・昼食）➡ 横川SA ➡ 川越・本川越

１日目　バス旅雑感

狭山　牧　憲昭

一日目、晴天に恵まれるも厳しい暑さが予想される。参加者名簿に教員人生の青春時代を共に過ごしたK・Nさんの名前がある。かなり久しぶりだ。今夜の宴会で酌み交わす情景が目に浮かぶ。

最初の見学地は「八ッ場ダム」。利根川の支流吾妻川に、防災・都市用水の供給・発電を目的に令和二年に完成。次は「やんば天明泥流ミュージアム」。発掘調査により天明三年浅間山の大噴火で埋没した村々を始め、縄文から江戸時代までの遺跡が見つかり、当時の暮しが体感できる。天明泥流体験シアターでの泥流に飲み込まれる画面には身震いした。

八ッ場ダム概観

今回の参加者三十名の平均年齢は七十五・九歳。最高齢は九十五歳のK・Sさん。その心意気と矍鑠としたお姿に感銘を受けた。

結びに、今年参加された皆さん来年も必ずやこの旅行でお会いしましょう。そして会員の皆さん、是非一度この研修旅行にご参加ください。縁ある方々との再会が待っているかもしれません。

２日目　初夏の信濃路を訪ねて

坂戸　長野佐七

七月五日午前八時、志賀パークホテルの前で集合写真を撮った。参加者全員が清々しい表情だった。それもそのはず、気温は十九度で湿度も低く爽やかだった。

二日目の最初の見学は、飯山市の「高橋まゆみ人形館」である。館内には、表情豊かな創作人形が、ずらりと展示されていた。私は見学していくうちに、作品の世界に引き込まれた。それは、作品の素晴らしさと共に描かれた時代と私が育った環境が似ているように思えたからである。

次に、善光寺を訪れた。案内人の説明を聞いてから本堂を参拝し、健康の維持を念じた。特に、びんずる様には、ずっと自力で歩けるようお願いした。その後、善光寺の外観に目をやった。山門から眺めた本堂は堂々としていて大変に素晴らしかった。「善光寺の参拝者年間六百万人」が頷けた。

私は、今回初めて本旅行に参加した。多くの先生方と交流できたことに感謝したい。

善光寺

会員の声

非日常のある一日

狭山　千葉　収

平成二十八年三月に退職して九年。夫婦二人の年金暮らし。妻はマラソン、私はゴルフを楽しんでいる。目指すは「サブ四」・「スコア八五切り」。そんなある日、後輩のKさんから「山へ行かない？」と連絡がきた。即「いいよ」と返答。

数日後、狭山市駅に集合したのは四人の退職仲間。行先は「小仏城山」。高尾駅で乗り換えて相模湖駅へ。四人掛の座席。手動で開く窓の電車内で盛り上がったのは「学生の頃は・・・」という懐かしいあれこれ。駅前に停車しているバスも、商店の看板広告も懐かしい。登山道は四G（ジジイ）には危ない場面もあったが無事に登頂成功。爽やかな涼風が吹きぬける景色の中で食べたおにぎりがおいしい。Sさんが作ったキュウリ漬けがすばらしく美味。山頂での会話が弾んだ。変わらない仲間と過ごす非日常の時間。幸せである。

自然体で楽しく

川越　関根康弘

退職後、四年間勤めた社会教育指導員の仕事も昨年で辞めた。本欄で紹介される会員の皆さんのように、これを機に新たな挑戦を・・・という訳でもなく、のんびり気ままな毎日を送っている。

毎朝、小鳥のさえずりを聞きながら一時間のウォーキング（ジョギング）、月に数回、気が置けない仲間と行うゴルフ、五十年近く続けている週末のア・カペラ合唱。さらには、読書、映画、DAZNでのスポーツ観戦、適量の酒なども生活に彩りを添え、穏やかな日々が過ぎていく。これらが、妻と共通の嗜好であることもありがたい。

仕事、子育て真っ只中の娘は、「早く退職したい」などとぼやく。「娘よ、大変だろうが、それも含めて今を楽しめ。そして、それを乗り越えた後の退職生活は、いいものだぞ」ということを体現するのが、私の役割だと思うこの頃である。

健康オタクで百歳まで

日高　中村一夫

退職後、日高市の教育長を拝命し、今年で九年目を迎えた。仕事上で迷惑をかけないために「健康オタク」に徹している。

まずは、腸活。朝食は十三種類の食材で作る特製スムージー。併せて納豆とヨーグルトを食べる。晩酌を控えて、代わりにリンゴ酢の炭酸割を飲んでいる。

運動は、朝のエアロバイク三十分、テレビ、ラジオ体操を十五分。夕食後はフィットネス器具でふくらはぎに刺激を与えている。

歯磨きは、一日四回。起きてすぐに塩入りの歯磨き粉で歯茎のマッサージ。朝食後は液体歯磨きを利用し、昼はフッ素入り、夜はホワイトニングの歯磨き粉を使う。

その他、こまごまと取り組んでいる。お陰ですこぶる調子がいい。「百歳まで生きる」と言っていた父は数年前に九十四歳で他界した。父の思いは息子の私が実現したい。

生きる楽しみを探して

入間　齋藤　悟

今年の三月で再任用教員を終えて、ふと谷川俊太郎氏の詩「生きる」が心に浮かびました。一日一時を大切に生きる事の意義を示す詩です。誰もがいつとなく自分自身に問いかける言葉です。今の私の置かれている状況は、親の老々介護や孫の世話等の日々で一日が過ぎていきます。私は、在職中に、秩父札所三十四ヵ所を二巡したので、現在は旅先の寺社で御朱印を頂く事と、併せて日本名城百選巡りする事を始めました。その地方の歴史や生活を学ぶ事ができ、そこで出会った人とのふれあいがとても有意義に感じています。また、出雲大社で頂いた御朱印には「初心に還り、自分を見つめ、明日に向かって誓いを新たにする」という言葉がありました。いつかそんな瞬間が来ると信じ、そして自分らしく生きているかを自問しつつ生きたいと思う今日この頃です。

Uターンライフ　IN　青森

鶴ヶ島　渡邉範行

退職七年。青森での生活六年目。青森は、約半年が雪との生活。毎日トラクターと除雪機での雪かき。年々機械操作が上達している。孫のために庭にゲレンデを作るのも楽しみの一つだ。スキーの腕は、まだまだ負けない。

長い冬を越え、待ち望んでいた春。野菜づくりが始まる。「今年は、どこに何を植えようか」と考えるのが醍醐味。青森は、五月でも気温が上がらないため、試行錯誤の繰り返し。自然相手ではなかなかうまくいかないが、充分食べていけるまでになった。昨年は、

約二十五種類の野菜を作り、皆にお裾分け。「美味しい」と喜ばれることが生き甲斐となっている。

もう一つの楽しみは、妻との青森の名所や道の駅巡り。今年で青森全ての道の駅を制覇。絶景の津軽海峡や八甲田山など見所は多い。

これからも健康第一で…。

野菜を育てる楽しみ

入間東部　澤田秀雄

在職中、総合的な学習の時間に、地域の方に野菜の育て方について子供たちと一緒に学び、野菜を育てることの楽しさを教えていただきました。

退職後、家庭菜園を始めました。しかし、学校では育った野菜が、育ちません。見えないところで、地域の方が野菜の世話をしていたから育っていたのです。このことに改めて気付き、野菜の成長を観察し、細かい変化に気を配り、土作り・除草・施肥に努めました。最近は、何とか食べられる野菜が育つようになりました。しかし、思うような野菜は育ちません。

次こそは、次こそはと思いながら、家庭菜園を楽しんでいます。

これからの十年も

所沢　長岡伸一

退職して四年目。今年度も、拠点校指導教員として、五人の初任者を指導し、充実した日々を送っている。初任者と言っても、新卒もいれば臨任経験が豊富な者もいる。各々の性格や考え方、ものの見方、捉え方が様々で、改めて、「教えること」「育てること」の難しさを感じている。今年度勤務している学校の校長室には、十年前の私の顔写真が掲額されている。鏡に映る今の老けた自分の顔を見て、「この十年間で、色々なことがあったなあ」「よく頑張ってきたな」と感じている。

休みの日は、ほぼ毎週、ゴルフとソフトボールで汗を流し、たまに四人の孫の子守をしたり、町内会の仕事をしたりと、仕事も私生活も充実した日々を送っている。

これからの十年も心身ともに健康で充実した日々を送りたい。

里山のくらし

越生　原　陽子

人と自然（山や森、田畑など）が共存している地域を里山と呼ぶ。まさに我が家は里山にある。

梅から始まり、桃・桜・ツツジ・バラ・紫陽花と四季折々に花が咲き、季節の移り変わりを実感する。畑では野菜が育ち、様々な鳥や虫が姿を見せる。

収穫した梅の実でジュースや梅酒・梅干しを作り、杏やイチジク、ブルーベリーでジャムを作る。秋には干し柿、干し芋を作り、大根や白菜で漬物を作る。まさに、自然の恩恵である。

ただ、大変な事も多い。雑草の量が半端ではないし、虫やヘビに驚かされる事もある。この頃は、天候不順や鳥獣の被害も深刻である。

それでも、里山でのくらしは楽しい。自然に感動し、驚き、悩みながら、これからも自然に感謝してくらしてゆく。

校長を退いて

入間　吉田穂高

前年度三月、役職定年を迎え、現在は入間市立黒須中学校で、主幹教諭として勤めております。

現勤務校は、初任のときの学校であり、そして、何より、前年度末まで共に暮らした（最後は黒須小で校長職を終えました）黒須小六年生とともに入学（着任）する、という何とも言えない「縁」を感じる学校でもあります。今はその縁ある中一に社会科を教え日々慌ただしく過ごしています。教頭職以来、五年ぶりの授業ですが、やはり教材研究のひと時は何とも言えず充実しています。授業でも意図したとおりの反応が、生徒から返ってくることが楽しくて仕方ありません。

校長時代は先生たちに「教師は授業で勝負」なんて言ったものですが、それがウソにならぬよう、授業に邁進する日々を送っています。

楽しく健康にくらす

所沢　五十嵐和彦

入間地区退職校長会に入会させていただき、ありがとうございます。五月の総会では、お世話になった諸先輩方に久しぶりにお会いすることができ、感激しました。今年度は特例再任用校長として、現任校で勤務しております。今年も学校経営に携われることに感謝しております。

さて、年々衰える体力に抗おうと、休日には自宅近辺をウォーキングやサイクリングをしています。見慣れた景色の中に新しい発見があり、とても楽しく健康づくりに取り組んでいます。これからは少し範囲を広げ、所沢市外へも足をのばそうと思います。健康を維持するとともに、学び続けることを通して、少しでもご恩返しができればと思います。

今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

作品の窓

「思い出」（彫塑）
坂戸　武藤 篤美

「マルバ柳神（りゅうじん）」（油彩画）
狭山　小池 孝太郎

「皇居二重橋」（水彩画）
所沢　鶴田 登

「名栗の清流」（油彩画）
日高　中尾 善充

「野菜のなかまたち」（素焼）
毛呂山　古賀 征一

「雨後の渓谷」（水墨画）
川越　黒田 健

会員交流のつどい

期日　十月十二日（土）
午前十時
会場　ウェスタ川越 活動室
仮題　「私と川柳」
講師　大森 昇司 氏
（柳名 麦そよぐ）

毎日新聞に度々秀作披露、笑いのある人生の楽しみ方をお聞きしましょう。

編集後記

会員の皆様方のご協力により、ここに広報第四十四号をお届けすることができました。巻頭には、今年度就任された小林美音西部教育事務所長、鯉沼文夫副会長から玉稿をいただきました。

広報委員となり二年目となりますが、この間、諸先輩方の原稿をじっくりと読む機会を得ました。退職後の活動の様子、教育との関わりなど示唆に富む内容ばかりで、私自身が今後の生活の在り方や考え方など改めて考えさせられることがたくさんありました。今後も会員の皆様に読んでいただけるような会報づくりに努めてまいります。（田島）

入間地区退職校長会会報
第四十四号
発　行　令和六年九月一日
発行者　会長　比留間英雄
越生町成瀬一四一－一
印刷所　六三四堂印刷株式会社